

月	題材名	題材のねらい	教材名 ●は鑑賞教材	評価基準	共通事項
4	歌声ををみがこう	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい仲間と歌う喜びをわかちあい、音楽学習への意欲態度を育てる。</li> <li>親しみやすい音楽に触れ、より広く音楽を楽しもうとする態度を育てる。</li> </ul>	輪唱	(ア) 歌詞の内容や曲想、曲の構成に関心を持って意欲的に表現しようとしている。 (イ) パートの役割と全体の響きを感じ取って合唱の表現を工夫している。 (ウ) 曲にふさわしい発声法に興味を持ち意欲的に活動している。	リズム 旋律 音色 強弱 形式
4	詩と音楽のかかわりを理解して、表現を工夫しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の内容や曲想を味わい言葉と旋律のかかわりや、旋律の音の動き、強弱の変化から旋律のまとまりを理解し、情景を思い浮かべながら曲にふさわしい表現を工夫して合唱する。</li> </ul>	夏の思い出	(ア) 歌詞と旋律との関わりに関心をもち意欲的に表現しようとしている。 (イ) いろいろな要素の変化によって、曲の雰囲気が変わることを感受し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (ウ) 歌詞や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。	旋律 強弱
5	曲想を感じてのびのび歌おう	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の内容や曲想を感じ取って、音楽表現を工夫する能力を育てる。</li> <li>八長調の理解と視唱</li> </ul>	夢の世界を	(ア) 歌うときの姿勢や呼吸法を体得し響きのある声で歌おうとしている。 (イ) 無理のない姿勢でスムーズに歌うことができる。	旋律 テクスチャ 形式
6	パートリーダー決め	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽会に向けて、リーダー中心の練習に慣れる</li> </ul>	夏の思い出	※各パート、数人ピックアップ。それを基に担任と相談。	音色 リズム 旋律 テクスチャ
7	クラス曲、曲決め	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽会に向けて、リーダー中心の練習に慣れる</li> </ul>	クラス曲、曲決め		
7	混声合唱の喜び	<ul style="list-style-type: none"> <li>旋律の重なり合いやパートの役割を感じ取って表現を工夫する能力を育てる。</li> <li>歌詞の内容や曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫する能力を育てる。</li> </ul>	学年合唱曲 クラス合唱曲 全校合唱曲	(ア) 他の声部との関わりや和声的な響きに関心を持ち、合唱表現することに意欲的である。 (イ) 詩と音楽が一体となっている合唱曲の表現効果を感じ取っている。 (ウ) 合唱表現の技能を身につけている。 (エ) グループで協力しながらアンサンブル表現を工夫しようとしている。	旋律 強弱 速さ
9	混声合唱の喜び	<ul style="list-style-type: none"> <li>旋律の重なり合いやパートの役割を感じ取って表現を工夫する能力を育てる。</li> <li>歌詞の内容や曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫する能力を育てる。</li> </ul>	学年合唱曲 クラス合唱曲 全校合唱曲	(ア) 他の声部との関わりや和声的な響きに関心を持ち、合唱表現することに意欲的である。 (イ) 詩と音楽が一体となっている合唱曲の表現効果を感じ取っている。 (ウ) 合唱表現の技能を身につけている。 (エ) グループで協力しながらアンサンブル表現を工夫しようとしている。	旋律 強弱 速さ 形式 構成
10					
11	ギターを弾いてみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>ギターの音色や基礎的な奏法に関心を持ち、主体的に練習の取り組みもうとする力を育てる。</li> </ul>	E m 7、E m E、A m、C D、G、F (年間を通	(ア) 楽器の特徴をとらえ基礎的な奏法を身に付けて演奏できる。 ※グループで協力して学習することができる。 ※学期に一回コード弾きテスト	音色
12					

			じて増やし ていく)		
1	合唱の喜び	<ul style="list-style-type: none"> <li>声部の役割を感じ取って、全体の響きに気をつけて、合唱する能力を育てる。</li> </ul>	卒業式の歌 そのままの 君で、絆 国歌、校歌	<p>(ア) 響きのある声によって、正しい音程でなめらかに歌うことができる。</p> <p>(イ) いろいろな要素の変化によって、曲の雰囲気が変わることを感じ取り、工夫している。</p> <p>(ウ) 響きのある声によって、正しい音程でなめらかに歌うことができる。</p>	旋律 強弱 構成
2	オペラの特徴を理解して、その魅力を味わおう	<ul style="list-style-type: none"> <li>オペラの音楽の特徴を、文化・歴史や他の芸術とのかかわり、曲想などから理解して</li> <li>そのよさや美しさを味わいながら聴き、根拠をもって批評するなどする。</li> </ul>	●アイーダ	<p>(ア) オペラに興味・関心をもって鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(イ) 音楽の特徴と他の芸術との関連に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(ウ) 声の音色、旋律、オーケストラと合唱のかかわりを知覚して、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。</p> <p>(エ) 知覚・感受しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解する。音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解するなどして、解釈したり、価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p>	音色 旋律 テクニク
3					